

障害者相談支援事業所ハンズ宮城野 令和6年度ボランティア研修を開催しました。

令和7年3月20日

障害者相談支援事業所ハンズ宮城野

令和7年3月20日（木）、宮城野障害者福祉センターの登録ボランティア及び令和6年度ボランティア養成講座を修了した方を対象として、令和6年度ボランティア研修を開催し、参加者10名が車いすの操作体験を行いました。

宮城野障害者福祉センターの理学療法士が、当センターの概要や自立訓練（機能訓練・生活訓練）事業について説明した後、車いすの基本的な知識を伝え、介助する時に配慮すべきことを確認しました。その後10人が2人ずつペアとなり、車いすに乗る人、介助する人と役割分担して宮城野障害者福祉センター前の仙台市ガス局前交差点の歩道を時計回りに横断し、センターに戻るという体験を行いました。

参加者からは「車いすを押して横断歩道を渡る時、（青信号の時間が短くて）時間が足りないと感じた」「初めて車いすに乗って、点字ブロックの上を通る時、ガタガタ揺れて乗り心地が悪かった。乗っている方の気持ちが分かったような気がする」「自転車が自分の方に向かってくるのがこわいと感じた」など車いすに乗った時に感じる不安に関する意見、「車いすに乗っている方に声かけをする時、体を寄せて話をした方が安心してもらえるなと思った」「初めて車いすに乗り、新鮮な気持ちになれた」「車いすはたくさん見てきたが、乗るのは初めての体験だった。実際には大変腕力、体幹の筋力が必要であることが分かったが、介助者に車いすを押してもらって風が心地よかった」など、介助者とともに車いすで移動することで得られる気づきなど、前向きな意見もありました。理学療法士より「車いすに乗ると目線が低くなる。車いすに乗って初めて分かることもあると思う。経験してみて、乗る側の気持ちを考えられるようになればいいと思う」「車いすと自転車では、自転車の方が速いので、自転車が停まるべきだが、実際には難しいかもしれない。こちらがゆっくり停まるなどして、自転車に乗っている人にこちらの動きを予測してもらうことが大切」「渡っている最中で、信号が点滅したからといって焦らず、周囲をよく見て堂々と渡り切るということも必要だと思います」などの助言がありました。

アンケートでは「はじめての経験でしたので、とても勉強になりました。ありがとうございました」「車いすに乗る機会はなかったので、キャップハンディ体験、よい体験ができました」等の意見がありました。今後も、登録ボランティアの方が知りたい内容の把握に努め、参加者が満足できるように研修の企画を行っていきたいと思います。

【講座風景】

